

新しい日本銀行券の発行を開始しました

▼日本銀行は二〇二四年七月三日、新しい日本銀行券の発行を開始しました。

▼同日の午前八時前、日本銀行本店で植田和男総裁が挨拶を行い、その後、総裁、氷見野良三副総裁および高口博英理事の立ち会いのもと、金沢敏郎発券局長が職員に新しい日本銀行券の発行開始を指示し、金融機関への引渡しが始まりました。これらの模様は報道関係者にも公開しました。

▼本店のほか、全国の支店でも金融機関への引渡しを行い、七月三日だけで一兆六〇〇〇億円（二・八億枚）の新しい日本銀行券を世の中に送り出しました。

▼新しい日本銀行券に関する情報は、日本銀行ホームページをご覧ください。

▼なお、これまでの銀行券も引き続きお使いいただけます。



発行開始時の記念撮影（右から植田和男総裁、氷見野良三副総裁、高口博英理事、金沢敏郎発券局長）



挨拶を行う植田和男総裁



金融機関への引渡しの様子



新しい日本銀行券の発行開始を指示する金沢敏郎発券局長

【一万円券】

【五千円券】

【千円券】

(表)



(裏)



中央銀行デジタル通貨に関する連絡協議会

(第七回)の開催について

▼日本銀行は、五月二十九日に「中央銀行デジタル通貨に関する連絡協議会」を開催しました。同協議会は、中央銀行デジタル通貨に関する日本銀行の取り組みについて、民間事業者や政府との情報共有を図るとともに、今後の進め方を協議するものです。

▼七回目となる今回の協議会では、「パイロット実験」の中で構築を進めている実験用システムの構成や基本機能、机上検討における機能面・非機能面の検討テーマ、「CBDCフォーラム」での各ワーキンググループにおける議論の内容、CBDCを巡る海外各国の動向等についての説明を行い、参加者の方々と意見交換を行いました。

▼連絡協議会の説明資料や議事要旨は、日本銀行ホームページ



ホームページをご覧ください。

生活意識に関するアンケート調査を実施しています

▼日本銀行では、政策・業務運営の参考とするため、本支店や事務所を通じた広報活動の中で、国民各層の意見や要望を幅広く伺うよう努めており、その一環として一九九三年以降、全国の満二〇歳以上の個人四〇〇〇人を対象に「生活意識に関するアンケート調査」を実施しています。

▼この調査は、「全国企業短期経済観測調査（短観）」のような統計調査とは異なり、生活者の意識や行動を大まかに把握する一種の世論調査です。

▼アンケートのタイトルに「生活意識」とあるように、回答者の生活に対する実感を尋ねる質問が中心となっています。例えば、「現在の景気をどう感じるか」「一年前と比べて暮らし向きがどう変わったと思うか」「一

年後の物価はどうなると思うか」といったようなことです。

これに加えて、日本銀行のことでどの程度知っているか、また、どう思っているかなど、日本銀行の業務に関連するトピックについても質問しています。

▼調査は日本銀行から委託を受けた調査機関が実施します。回答内容はすべて統計的に処理しており、回答者の名前や回答内容が特定されること、また、回答者の個人情報その他の目的に使われることはありません。

▼一度に多くの方から、生活に関する意識やご意見を伺うことができるため、日本銀行の広報および広聴活動にとっても、非常に貴重な機会となっています。

▼調査は年四回（三、六、九、十二月）実施しており、結果は日本銀行ホームページをご覧ください。



金融研究所からデジタルアーカイブ掲載資料のご紹介 〜歴史の世界へようこそ〜

▼金融研究所アーカイブは、日本銀行に関連する歴史的資料を保存しています。現在、約一十万点の資料が誰でも利用（閲覧・写しの交付）できるほか、利用頻度が高い資料については、当アーカイブホームページ「デジタルアーカイブ」にて資料の画像をご覧いただけます。

▼「文書」「写真」「図面」「統計」「トピック」「いろいろ」といった六つのコーナーを設け、資料の画像を掲載していますが、この中からおすすめの資料を三点ご紹介します。

▼まずは、①「営業免状」です。明治十五年（一八八二）六月に日本銀行条例が公布され、同年十月十日に日本銀行は開業しました。営業免状には、開業前日の日付（十月九日）で、当時の大蔵卿・松方正義の署名と印影が見られます。縦約三八センチ

メートル、横約四四センチメートルで、賞状程度の大きさです。今年松方の没後一〇〇年に当たり、出身地である鹿児島県の博物館で開催される企画展に原本を貸し出す予定です。

▼次にご紹介するのは、最も利用回数が多い、②「金禄公債証書」です。明治政府は華族・士族などには家禄を、維新の功労者には賞典禄を支給していましたが、明治九年（一八七六）に数年から十数年分の家禄・賞典禄の価額分の公債証書を交付し、家禄・賞典禄の支給を廃止



営業免状

しました（秩禄処分）。この「金禄公債証書」は、その際に交付されたものです。秩禄処分は重要な政策だったため、歴史の教科書では必ず取り上げられる出来事です。そのため、「金禄公債証書」の画像は、教科書や歴史の資料集などを編集している出版社・学習塾・予備校から利用されることが多いです。

▼最後に、テレビ番組など、マスコミから多く利用希望が寄せられる、③「日本銀行旧本店の写真」をご紹介します。

旧本店は明治十五年（一八八



金禄公債証書



旧永代橋たもとにあった日本銀行旧本店（旧北海道開拓使物産売捌所）

二）に日本銀行が開業した時の建物で、隅田川下流の旧永代橋（現在の日本橋箱崎町）のもとにありました。大蔵省が所有していた旧北海道開拓使物産売捌所を借用したもので、明治二十九年（一八九六）に日本銀行本店が現在の場所に移転するまで、この建物で営業していました。

旧本店の設計者は、後に日本銀行本館を設計する辰野金吾を

育成するなど、日本の近代建築発展の基礎を築いたイギリス人建築家ジョサイア・コンドルです。写真には人物や人力車も写っており、当時の街の様子がうかがえます。

▼アーカイブが所蔵する歴史的資料の一部をご紹介します。多くの資料を掲載していますのでご覧ください。



情報サービス局にパブリック コミュニケーション課を新設

▼七月に情報サービス局の組織を再編し、一般広報の運営等を担うパブリックコミュニケーション課を新設しました。

▼イベントや本店見学、広報誌等を所掌する広報・見学グループと照会や情報公開等を所掌する広聴グループの仕事を紹介します。

1. 広報・見学グループ — イベントや本店見学、 広報誌等を所掌

① 「日銀夏休み親子見学会」 の開催

▼「日銀って何をしているところ?」「日銀ってどんなところ?」、そのようなお子さまの好奇心に応えるため、お子さまに楽しく学んでいただくイベント「親子見学会」を開催します。

▼本店では、八月二十日



1億円の重さ体験



地下金庫の見学



お札の数を学ぶ

二十三日に、小学四年生〜中学生およびその保護者の方を対象とした「日銀夏休み親子見学会二〇二四」を開催しました。

▼見学会では、本館見学やお札に関する体験学習などのプログラムにご参加いただきました。参加者からは「新しいお札の偽造防止技術を学ぶことができ、興味深く、面白かった」などの感想が寄せられました。

▼次回の開催は、春休み期間中を予定しています。

▼過去の親子見学会の様様を収録した動画は、日本銀行ホームページをご覧ください。



② 「第二〇〇回日銀グランプリ」 〜キャンパスからの提言〜 の開催

▼日本銀行では、学生の皆さんが金融・経済に関心を持ち、わが国の金融・経済の現状と将来について、自分たちの問題として考えてもらうきっかけになればとの思いから、二〇〇五年度より小論文・プレゼンテーションのコンテスト「日銀グランプリ」を開催

学生のための小論文・プレゼンテーションコンテスト
第20回 **日銀グランプリ**
〜キャンパスからの提言〜

課題 わが国の金融・経済への提言

日銀グランプリは、日本銀行が毎年開催している、学生の皆さんを対象とした金融・経済分野の小論文・プレゼンテーションのコンテストです。多くの皆さんのご応募をお待ちしています！

応募資格 現在、大学(旧大卒を含む)に在籍の方(大学四年生は除く) 2〜4名1組のグループでご応募ください。

種別内容
最終発表/1チーム(副賞 図書カード15万円)
優秀発表/2チーム(副賞 図書カード3万円)
特別賞/1チーム(副賞 図書カード3万円)

※応募の締切は毎年発表会開催日より前日(2024年7月26日)です。

締切 9月30日必着
主催 日本銀行



日本銀行本店本館



本館中庭



馬の水飲み場

リ」を開催しています。
▼第二〇回目の開催となる今年度のテーマは「わが国の金融・経済への提言」です。

▼書類審査による予選（応募締切：九月三十日）により決勝進出チームを選出のうえ、日本銀行本店での決勝（十一月下旬開催予定）において、プレゼンテーションおよび審査員との質疑応答を行い、各賞を決定します。

▼今年度の実施情報や、前回決

勝参加チームの作品全文と審査員講評、決勝大会の様相を収録した動画は、日本銀行ホームページをご覧ください。



③ 一般見学の開催 — 新たな発見を見学ツアーで

▼日本銀行を少しでも身近に感じていただけるよう、見学案内

を実施しています。

▼見学では、国の重要文化財に指定されている本館（地下金庫、旧営業場、展示室〈建物や歴史、日本銀行の機能や役割の解説〉等）を、ガイドによる解説付きでご案内します。今回は、その見学コースをご紹介します。

▼「日本銀行本店本館」は、明治二十三年（一八九〇）の着工から、五年半の歳月を経て明治二十九年（一八九六）に竣工した、

日本人建築家（辰野金吾）による最初の国家的近代建築です。

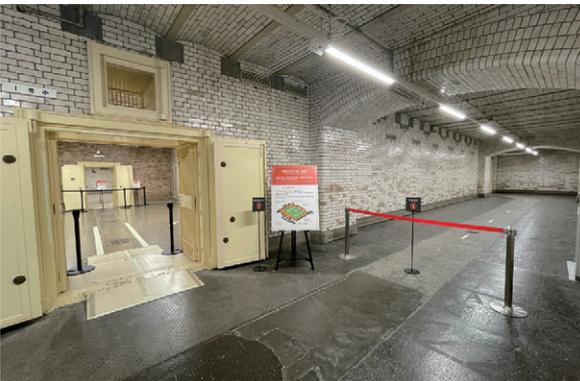
▼本店見学は、まず、本館の中庭からスタートします。

一階中庭を巡る回廊の柱および二〜三階を貫く柱は、いずれも岡山県産の北木石きたぎで、つなぎ目のない一本石です。左右対称に配置された柱や、歴史を感じる外壁を間近で見ることができ

ます。
また、中庭には「馬の水飲み場」



地下金庫の扉



回廊と金庫扉



1000億円の模擬券



1億円の重さ体験

もあり、明治時代の馬車文化の名残を感じることができます。

▼建物の中に入館した後は、日本銀行の機能や役割を紹介したビデオをご覧ください。

次に、当時、役員フロアとして使用されていた二階に移動し、歴代総裁の肖像画や肖像写真のほか、展示室では日本銀行の歴史や建物についての資料をご覧ください。

特に、本館を象徴するドーム屋根の真下の部屋（八角室）は、吹き抜けの空間で、調度品などの展示も含め、日本銀行の歴史を感じるすることができます。

▼次に、地下一階に移動します。最初に本館の地下構造をご覧ください。いよいよ地下金庫に入って行きます。

まず眼前に現れるアメリカ製の扉は、本館の増築時に取り付

けられたもので、扉と枠部分を合わせて二五トンの重さがあります。

さらに奥に進むと、左右に大きな回廊が見えてきます。白色のレンガに囲まれたこの回廊では、かつて現金等の運搬に使用されていたトロックレールの跡をご覧ください。

その先に、創建当初の姿をほぼそのまま残しているエリア

で、入り口のイギリス製の金庫扉が歴史の重さを感じさせます。

▼金庫内では、現金の保管状況を再現した展示を見ることができます。

パレットに積み上げた二〇〇億円の模擬券を設置しており、こちらは大人気の撮影スポットとなっています。

また、明治時代のレンガな

トピックス

どをバックに、「一億円（模擬券）」や「金塊（レプリカ）」「顔出しパネル」を持ちながらの撮影を楽しんでいただけます。

そのほか、カメラのフラッシュモードで撮影すると背景が大きく変わるフラッシュパネル、お札のスタンプなどをご用意しています。見学の記念に、ぜひお楽しみください。

▼最後は、明治から昭和の半ば頃まで実際に窓口業務を行っていた、一階の旧営業場です。

二階まで吹き抜けた広々とした空間や、壁等に施されたさまざまな装飾は、見る者を圧倒する迫力で、明治期の姿を今でも残しています。

▼本店見学は、要予約制で、九〇日前から予約を受け付けています(料金は無料)。インターネットの予約サイトから二四時間、いつでも予約を取ることができます、小学五年生から、どなたでも見学が可能です。



1階旧営業場



顔出しパネル



フラッシュパネル



何が写るかは撮影してからのお楽しみ



1階旧営業場の装飾

編集後記

■ 秋号を発刊し、ようやく秋を迎える準備ができた気がします。今年の夏は酷暑でしたが、読者の皆さまは体調を崩されていないでしょうか。

■ 「対談」では、治療に東洋医学を取り入れている医学博士・津田篤太郎先生に、易経に関する著作もある氷見野副総裁がお話を伺い、西洋医学と東洋医学のアプローチの違いやその相互補完性について分かりやすくお話しいただきました。その世界観の違いは、全く違う分野である金融規制・監督や経済政策を考える際にも当てはめ得るといえるのは、とても興味深い視点だと思います。

■ 「インタビュー」には、パティシエという言葉に世に広めた辻口博啓さんにご登場いただきました。多くの苦難に直面しながらも、小学生からの思いを貫き、人より努力することはもちろん、目標から逆算する形で戦略的に物事に取り組むことによって、現在の地位を築かれました。そこで満足せず、常に進化し続ける姿勢が、辻口さんを辻口さんたらしめているのだと感じます。また、今年の1月に震災に見舞われた故郷能登の復興にかける思いも伺っています。食や伝統文化、アートなど豊富な資源を持つ能登が早く復興し、「地域の底力」で取り上げる日が来ることを心待ちにしています。(小牧)

[アンケート募集中]

「にちぎん」に関するご意見・ご感想は、アンケートよりお寄せください。日本銀行のホームページからインターネットでもアンケートにご回答いただけます。



※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。(https://www.boj.or.jp/about/koho_nichigin/index.htm)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ (https://www.boj.or.jp) をご覧ください。

にちぎん 2024年秋号
編集・発行人 小牧義弘
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町 2-1-1
☎ 03-3277-1947



デザイン 株式会社市川事務所
印刷 株式会社アイネット
禁無断転載

新たな発見を見学ツアーで、皆さまをお待ちしています。

2. 広聴グループ

照会や情報公開等を所掌

▼広聴グループでは、電話やメール等により一般の方々などから寄せられる、日本銀行に対する意見・要望や各種照会の窓

口機能を担っています。

▼窓口寄せられた意見・要望は、行内で組織的に共有を図るほか、照会に対しては、各所属の広報担当者と連携しつつ、回答を行っています。

▼このほか、情報公開・個人情報保護窓口としての役割も担っています。

